インド文化研修レポート

1　この研修プログラム全体について

このプログラムでの一番の収穫は、普通の旅行ではなかなか経験することのできないインドの学生生活を送ることができたことだと思う。アメリカやカナダ、フランスなどの国に留学している友達や、インドに旅行したことがある友達はいるが、インドの学生生活を経験した人は珍しいと思う。学校に通うことで日本の教育システムとの違いや、生活リズムを経験することができた。

また、インドに対する思い込みが全く違うものだということも分かった。例えば、「インド人は必ず右手で食事をする」というものだ。実際に食事しているインド人を見ると、たしかに右手ばかりを使って食事する人もいたが、スプーンや両手を使って食事する人もたくさんいた。頭にターバンを巻いているシク教徒にはほとんど出会うことはなかったし、日本のトヨタやスズキ、ホンダなどの車がたくさん走っていることを知った。ムンバイのような街では野良牛はほとんどいないが、野良豚や野良犬がたくさんいることに驚いた。インドにいる間は小さい驚きの連続でとても刺激的な毎日を過ごすことができた。

2　ヨーガのクラス

インド研修のプログラムを知ってから、私が楽しみにしていたことの一つは、ヨーガのクラスだった。やってみたいと思っていたが、今まで機会がなくてなかなか挑戦できなかった。私の中では、気持ちよく体をリラックスさせるものというイメージがあった。しかし、実際には違った。先生が簡単にこなして見せてくださるポーズは、体の固い私にとってとても難しいものばかりだった。瞑想も普段の生活の中で行うことではないので、イメージがつかみにくくとても難しかった。ヨーガのクラスの終わりに先生が必ず「リラックスできた？」とおっしゃっていたが、リラックスできるようになるまではまだまだ修行が必要だと感じた。

3　ヒンディー語のクラス

初めてヒンディー語を習う私にとって、読み・書き・発音の全てが難しかった。ヒンディー文字はひらがなや漢字と全く違うので、子音と母音の組み合わせ方などたいへん苦戦

した。しかし、ボランティアの生徒が１人ずつ私たちについてくれたのはとても助かった。授業についていけなくなってもボランティアが丁寧に教えてくれるのでめげずに授業に取り組むことができた。授業中のボランティアと私たちの会話は英語である。きれいな発音・文法ではなく電子辞書を使うこともあったが会話はできていた。この授業があったからこそ、ボランティアと私たちの距離が縮まり早く仲良くなれたのだと今になって思う。ヒンディー語のクラスは、ヒンディー語を習いながら英会話の練習ができるのでとても楽しくて有意義な時間だった。

また、ヒンディー語をこれから使う機会は少ないと思うし、ほとんど使う場面に出会わないと思う。しかし、その国の言語を習うことはその国の文化を知る１つの手段だと感じた。インド人に習ったヒンディー語で話しかけてみると、簡単なあいさつでさえ彼らは喜んでくれた。逆にインド人がスマホなどの辞書を使って日本語で話しかけてくれたときはとてもうれしかった。今まで意思疎通を図るためのツールとしての言語しか知らなかったが、異文化や歴史としての言語を知ることができた。

4　英語のクラス

英語のクラスは、ゲームなどが中心だったので楽しく授業に参加することができた。最初はインド人英語のくせが分かっていなかったので、先生がおっしゃることもあまり理解できていなかったが、R の音を ru と発音することを頭に置きながら聞くと、最初よりは聞き取れるようになった。

5　インド経済の授業

近年発展しているインド経済についての授業を受けた。インドはもともと国の収入の70%が税金だった。利益を得ようとすることは良くないこととされていたが、物質思考へと変わってきた。唯物論はもはやタブーではなく、利益はもはや禁句ではない。しかし、その利益はごく一部の人しか得ることができていない。インド人の３分の１の人は貧しく、収入のトップを 8～9%の人が占めている。世界で一番豊かな人はインドにいるが、世界で一番貧しい人もインドにいるという。インドは広大な土地を持つ国なので州ごとにも貧富の差はあるようだ。特にミゾラム州は非常に貧しい。農業中心のこの地域は人種や生活も異なり取り残されているという。シン首相からモディ首相に変わった今、富の配分にも変化が起きるのか関心がある。

またインド人の学力は素晴らしいもので、特に IT の分野で活躍している人が多い。アメリカのシリコンバレーでメインで働いているのはインド人である。近年、識字率がとても

上がっており、大学数も増えている。その数なんと日本の 10 倍以上だ。しかし大学を卒業しても就職が難しいのは日本と似ている。また、インドでは学校を中退する女子が多い。その多くの理由は、学校に女子トイレがないからという理由である。

6　Cultural exchange program

文化交流プログラムでは、珍しい歌や踊りを楽しんだ。使っている楽器やメロディーがインドらしかった。たくさんの楽しいパフォーマンスのお返しに、私たちはソーラン節とAKB48 の恋するフォーチュンクッキーを踊った。インドに来てから毎晩みんなで練習した。インド人が喜ぶか心配だったが、みんな楽しんでくれて、最後はボランティアのみんなもステージに上がり一緒に踊った。このとき会場と私たちが一体になったような感じがして「これが異文化交流というものか」と思った。言葉以外の何かで通じ合った気がして嬉しくなった。毎日練習して良かったと心から思った。

7　遠足

(1)　ムンバイ

ムンバイでは、インド門を見た。この建造物は、ジョージ 5 世とメアリー王妃の訪問を記念して造られたらしいが、彼らが上陸するときには未完成だったという。インド門が建てられたのはイギリス領インド帝国の時代だったため、建物もイギリス風だった。サリーやクルタと呼ばれる伝統的な服を身にまとったインド人と、イギリス式の建造物とのコントラストは不思議な感じがした。また、近くにある高級ホテルではかつてテロが起こったということをボランティアから教えてもらった。それ以来周辺の警備は厳しくなったらしく、武装した警官がたくさんいた。その事件について詳しく調べてみたいと思った。

また、ガンディー博物館である Mani Bhavan とネルー博物館である Nehru Centre にも訪れた。両者はインドに大きく影響を与えた人物である。どちらの博物館もかなり見ごたえがあった。インドの植民地時代や独立までの過程など、近年の発展からは考えられないような辛く苦しい歴史を学んだ。

ムンバイでの昼食はマクドナルドだった。日本ではファストフードのマクドナルドだが、インドでは高級レストランであるようだ。メニューの中にはベジタリアン用や、スパイスがよく効いたバーガーなどがあった。日本とは使っているスパイスは違うがとても美味しかった。

(2)　ナーシク

Phalke Memorial ではボリウッド映画の作品がたくさん展示してあった。インドは世界で一番多くの映画を製作している国であり、多くのインド映画の上映時間は約３時間というかなりの長編である。日本でも何本かインド映画を見たが、また探して見たいと思う。

Phalke Memorial を見学した後は少し移動して Pandav Caves を見学した。山の上にあるのでそこから見る景色はとても素晴らしかった。ここはもともと修行のために使われていたらしい。一人ずつ入る事ができそうな個室のようにくり抜かれた空間や、壁に刻まれた石像がたくさんあった。日本にもありそうな仏像はたくさんあった。

Panchavati と Kalaram Temple 周辺では、沐浴している人や食べ物やお土産を売る人、道端で物乞いをする人など、自分が想像していた「これぞインド！」というような街の様子を見ることができた。このあたりはスリなどが多いのか、注意して歩くようにと何度も言われた。この周辺にはお寺がたくさんあり、たくさんの人が列を作って並んでいる場所もあった。

8　ボランティアについて

ヒンディー語や英語の授業のサポート、社会見学、毎日の送迎など、ボランティアの学生にはとてもお世話になった。特に社会見学や買い物のときに一緒にいてくれるのは心強かった。常に横について歩いてくれたし、特に危ない地域では手をつないでくれる場面もあった。買い物の値段交渉までしてくれて、安くお土産を買うこともできた。また、日本語が話せる生徒がいてくれたことも良かった。どうしても英語での表現が分からなかったり、相手の英語を聞き取ることができなかったりしたときに頼った。

帰国してからも、ボランティアの中には LINE やメッセージをくれる学生がいる。私は帰国してしまったら関係が薄れてしまうのではないかと少し寂しかったが、そんなことはなかった。すぐにということは難しいかもしれないが、またインドに会いに行きたいと思う。インドでできた素晴らしい友達をこれからもずっと大切にしていきたい。

9　今後の文化交流について

インドでの交流は私にとって初めての異文化交流だった。この経験を通して、今まで興味を持つことの無かった大学での留学生のバディや国際交流イベントに興味を持ち、参加したいと思った。異文化交流は、他国だけでなく日本にも興味を持つ良いきっかけである。インドに行って初めて「日本だけのあたりまえ」だと気付く場面はたくさんあった。今までアジアに対しての興味だけだったが、日本についてもっとよく知りたいと思うようになった。そして、日本のすばらしさを英語で外国人に教えたいという気持ちが芽生えた。

10　その他

インドで過ごした 12 日間のプログラムはぎっしりでとても刺激的だった。もう少しリラックスできる時間や買い物をする時間がほしかったが、毎日温かくて美味しい食事をとることができ、きれいな宿舎に泊まることができた。安全で安心な旅行ができたので、インドに行きたくても行く勇気がない人は、一回目はこのプログラムで行ってみても良いと思う。ぜひ、後輩やその他多くの人にもこのプログラムを経験してほしい。